

第2回 めかびら源泉郷地区景観整備構想策定委員会

開催日時:平成 26 年 5 月 30 日(金) 13:30~15:40

開催場所:糠平温泉文化ホール

出席者:【委員】上士幌町観光協会 市田雅之氏、中村健次氏

めかびら源泉郷行政区 二瓶勝善氏、鷺北強氏、小野内勝氏、

めかびら源泉郷旅館組合 蟹谷吉弘氏、中村達氏

NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター 河田充氏

NPO 法人ひがし大雪アーチ橋友の会 角田久和氏

【オブザーバー】環境省北海道地方環境事務所、十勝西部森林管理署東大雪支署、
十勝総合振興局環境生活課

【講師】東京大学 堀繁教授

【事務局】上士幌町、株式会社地域環境計画

第1回構想策定委員会 議事概要

1. 景観に関する講演会(講師:東京大学 堀教授)

☆ はじめに、千葉副町長より第2回委員会へ向けての挨拶があり、事務局より、講演をしていただく堀教授の略歴をご紹介しました。

☆ 次に堀教授より、複数の事例写真を見せていただきながら、これからのめかびら源泉郷地区での構想づくりのポイントについてお話いただきました。講演の概要は以下のとおりです。

- ・めかびら源泉郷地区で最も重要なことは「大勢の人」が集まることであり、多くの人に「めかびらに行きたい」と思ってもらうことが大切。「どのように整備を進めるか」ではなく、整備によって、源泉郷地区に「どうなって欲しいか」、という「狙い」「ゴール」についての検討が必要である。
- ・誰もが行きたい街の特徴は、「道を歩いていて楽しい」、「沿道を見て楽しい」、「休んでみたい」、「景色が印象的」の4点にまとめられ、来訪者に「もてなされている」と思ってもらえるような「ホスピタリティ表現」が強ければ、次第に人が集まる。
- ・滞留拠点の設置も重要であり、ホスピタリティ表現が強く、歩行者に「座ってみたい」と思われるような工夫をしたベンチを道に設置することも、来街者を増やすことへと繋がる。座っている人が賑わいを呼ぶ「サクラ」になる。カフェや足湯は効果的である。
- ・道路・沿道の整備といった、効果が期待出来ないところ、大変なところは「手を付けない」ということが街づくりの戦略として大切である。むしろ、既存の園地の「魅力づくり」が大切である。
- ・「どのような温泉街にしたいか」の共通認識を持たなければ、議論が進まない。「人が来るように」狙った設計を行わなければ、人が集まらない。
- ・めかびらには滞留拠点になり得る場所が多くあるので、それを活かすことで、すぐに良くすることが出来ると考える。また、道路沿いに並ぶ土産物店についても、ホスピタリティ表現を強くすることで、集客につながると考える。

◇ その他、質疑応答では下記の質問が寄せられました。

問：滞留拠点を作成する際の資金は、民間の資金か。

答：民間の場合も、行政の場合もある。行政は民間の成功事例を参考にして、やりたいと考えている。

問：堀教授おすすめの一度見た方がよい観光地、温泉街はどこか。

答：草津温泉、銀山温泉、黒川温泉、湯布院など。来街者をもてなす工夫がされており、滞留拠点も整備されている。(堀教授が助言した温泉地(山口県あつみ温泉)の例もご紹介いただいた。)

2. 情報共有

◇ はじめに、事務局から第1回ぬかびら源泉郷地区景観整備構想策定委員会のふりかえりを行い、第1回委員会を受けて事務局が整理した議事概要および結果図、住居・空き家・廃屋分布図、ビューポイント図について、配布資料の確認、内容の確認を行いました。

3. 意見交換(ぬかびら源泉郷の目指すべき景観、跡地や動線などの利活用)

◇ 堀教授の講演を踏まえて、ぬかびら源泉郷地区の目指すべき景観について、次項の意見をいただき、イメージの共有を行いました。

【滞留拠点について】

- ・堀教授の講演を聞いて、滞留拠点は大切であると感じた。ぬかびらでも中央園地を滞留拠点にすることで、より良くなると感じる事ができた。
- ・ぬかびらには休む場所がないと感じた。糠平湖にもベンチが置いてあるが、実際に気持ちよく休める形になっているかと言われると、そうではない。家族でも休める場所づくりが大切である。
- ・現在のぬかびらには来訪者をもてなす「ホスピタリティ表現」が弱いと感じた。宿でも来街者に散策できる場所などを聞かれるが、紹介できる場所がない。過去には中央園地でも人が滞留していたこともあったが、今はない。動線の課題も多く、検討も大切だが、休む拠点を作ることも大切である。
- ・国道では、旭川ナンバーや札幌ナンバーの車を多く見かけるが、ぬかびらでは通り過ぎる車を引き留めるものが無い。全体構想として、こんな街づくりをしたい、という構想を持ってから、中央園地の改革が必要だろう。まずは通り過ぎる車を引き留めることが大切であると考えます。
- ・中央園地を整備した当時は、滞留空間を人に楽しませる、もてなすという考えが無かった。改めて考えると、ベンチの作り方や配置ひとつで変わったと思う。これから意見を頂いて、町の立場としてどうするのが良いか検討したい。
- ・足湯のように休ませることも大切だが、ただ休ませるだけでは勿体ない。景観も大切にしたい。休むところにビューポイントがある、というのが一番良い。そのように考えると、旧大雪グランドホテルはマイナス要因となる。
- ・ぬかびらのハンディも考えなければいけない。ぬかびらは町の中心を国道が通っており、国道を旅館が挟んでいる状態である。また、急こう配の坂道が続いているため、車は通り越してし

まう。国道のハンディを打ち消すような知恵が必要である。

- ・過去にも、街の中を国道が走るの望ましくないという意見があった経緯がある。現状としては、走ってくる車を引きとめられるような場所が必要である。取っ掛りが中央園地になるのではないか。トラックが危ない、ということもあるが、トラックがスピードを緩めるくらいのもので作る必要がる。
- ・秋に実施している源泉郷祭りを現在は窮屈な場所で行っているが、本来であれば、休んだり、飲食できるような広いスペースの溜まり場を作ったほうがいいのではないか。例えば、源泉郷祭りの理想的な姿についても検討が必要と考える。
- ・中央園地では、ナイトカフェを開いたことがある。ホテルで貰えるサービス券を持って、中央園地にビールを飲みに行く、など。

【駐車場について】

- ・野菜の直売所も、車を横付けできないなど問題がある。源泉郷祭りを仮想して、これから先、計画を策定していくためにはそういった考えが必要である。
- ・湯布院など観光地は、万年駐車場が足りない、という状態であった。最大の想定をする必要はないと思うし、直売所に車を横付ける、という行為はしないほうが良いのではないか。
- ・堀教授の話から、中央園地の活用に目が行きがちだが、旧東大雪博物館の跡地についても利活用を考えるのが良いのではないか。パークゴルフ場だけではなく、こちらも活用すれば良いと考える。
- ・通っている車を呼び込むには、駐車場スペースが必要となる。旧東大雪博物館跡地の利用もふくめた、広い駐車場を考えることが必要である。

【住民が行える取り組み】

- ・中央園地の話も、滞留空間として見られていたか。現状では見られていない。堀教授の話では、外から中の様子が見える、人に見せることが大切。中央園地も、通ったお客さんが中を見られるように、魅力ある空間づくりの工夫が必要である。
- ・お金をかけずにできることが多い。各旅館で、もてなしとして、すぐに改善できることがある。
- ・昔より、街が荒廃しているように感じる。廃屋のみが原因ではなく、雑草なども伸び放題なことも要因と感じる。お金をかけずに、まずは家の周りから手入れを行うことが大切であり、町内会でもできることがあると感じる。

【温泉街作りについて】

- ・今までのぬかびら源泉郷地区の考え方は、「森の温泉街作り」である。昔は園地の中心に足湯を作るという構想もあったが、資金難のため足湯の整備ではなく、植樹を行い「森の温泉街作り」とした経緯がある。現実的な問題として、資金の問題もあるので、方向転換を行うことは可能か。
- ・ぬかびら源泉郷地区の方向性としては、みどりを基調とした、うるおいある温泉地をつくり、それで集客したいということである。木もあり、休んでいる人も見える空間づくりがよい。
- ・今までは空間づくりについて、それほど意識していなかった、ということも事実である。中央園地も中が見られる空間づくりが必要。空間を整備するときに金銭問題が上がっていたが、整

備をお願いするにしても、どのようにしたいかの意識をしっかりと持つことが大切である。

- 近年では、北海道の観光では入込数などでも、沖縄に抜かれている現状がある。一方で、タイなどからの観光客が増えてきている。日本の情緒的なものを求めて来ており、その中の一つとして温泉地があげられる。そういった客層も取り込みたい。
- 足湯の他に、寺の沢のような川も綺麗になれば印象が変わるのではないかな。
- 水は人に安らぎと潤いを与える。中央園地にも元々は川が流れており、子供がザリガニ捕りをしていたこともある。
- 水との関わりも、人を呼び込む要因になると考えられる。
- 寺の沢も見せ方で変わるのではないかな。ガマを植栽しても面白いと思う。
- 寺の沢園地も、川へ降りる階段が整備されている。「親水」をアピールし、休憩できる空間を作っても面白い。



堀教授による講演の状況



委員会の状況